

# 井戸端だより

第 57 号

発行日： 2007.3.22

発行： ぐらしの学習会

今年は暖冬の影響で、東京の開花宣言を皮切りに、各地の桜の開花も軒並み早くなりそうですが、いかがお過ごしですか。さて、井戸端だより 57 号をお送りいたします。今回は初めて投稿してくれた会員のものもあります。それぞれの感性の違いも楽しめるかもしれません。読んで感じていただける何かがあれば幸いです。



## 目 次

・総会・2月・3月例会報告	..... P.2~
・2006年度会計報告	..... P.2
・さようなら バムさん	..... P.3~4
・東温市の野鳥・動物スライド映写会	..... P.5
・議会だより	..... P.6
・困った道	..... P.7
・ニュージーランド・オーストラリア観光雑感	..... P.7~9
・モコの生命力	..... P.10
・同級生	..... P.11~13
・雑感	..... P.14~16
・お知らせ・編集後記	..... P.16

## 総会報告

1月9日(火)午前11時から林宅にて、2007年度総会を行いました。初めて参加して下さった方が2名、合計9名で盛会でした。昨年度の会計報告(以下に掲載)及び、今年度の年間活動計画の話し合いを行いました。

(年間活動計画)

- ・マダガスカルのパムさんの話および送別会 2月予定
- ・奥川さんの東温市の野鳥・動物の話とスライドを見る会 3月予定
- ・内子五十崎のトンボ園の見学 時期未定
- ・『坂の上の雲』記念会館の見学 時期未定
- ・東温市の正確なゴミ分別の話を市役所の人から聞く 時期未定 など

その他、くらしの学習会の郵便貯金通帳が昨年できた規約を届けることで切り換えが終わったことの報告、ある会員から水道料金が上がるらしい?という情報入手・・・にぎやかな雑談の中で、お互いの情報交換ができました。総会終了後一品持ちよりの新年会が行われました。食べ物が入ると、座が一層和やかになりました。

### 会計報告

#### 収入の部 (円)

会費	28000
蝶絵葉書売り上げより返金	10000
絵葉書カンパ	3000
カンパ	2000
利子	1
前年度繰越金	40827
収入合計	83828

#### 支出の部 (円)

切手代	10220
防災食品	1151
出会い塾講師(2回)	4000
『蝶のくる庭』寄贈	1260
保険料1回	1000
ガソリン代	3780
支出合計	21411

83,828円-21,411円=62,417円(次年度繰越金)

## 2月例会報告

2月22日(木)午前10時半から、マダガスカルの留学生パムさんを招いての出会い塾と、帰国間近のパムさんの送別会を行いました。パムさんの出会い塾は、2001年以来2度目でした。パムさんは現在愛媛大学農学部の連合大学院博士課程3回生で、最後の研究発表会を終えほっとしたこの時期に、2度目の講師を快く引き受けてくれました。(詳細は次ページ)

留学目的の学業を終えマダガスカルに帰国する彼に再会した。初対面は確か5年前になる。愛媛に来る前に1年間 日本語を勉強していた彼の話す日本語は 当時から流暢だった。日本語の発音に違和感が全く無く 自然に会話も弾んだ記憶がある。そして今回も日本人の中にスーッと溶け込める彼に会えて楽しかった。

最近 日本のマスコミがマダガスカルを放送する機会を多くみる。キツネザルやバオバブの木は有名。アフリカの国でありながらアフリカ大陸から 400 キロ離れている影響かどうかは定かでないが アフリカ大陸にはないマダガスカル独自の植物や動物で有名になっている。しかし彼の家族はキツネザルを見たことがない。そういえばわたしは屋久杉を見たことがない。熊野古道を歩いたこともない。世界遺産は普通に生活しているその国の人々にはあまり関係がない。マダガスカルの普通の生活のことをもっと知ってもらいたいと彼は言った。

首都はアンタナナリボ。大きさは日本の約1.6倍で人口は約1700万人。ほぼ東京の人口と同じくらいだそうだ。国の形は左足に似ていると子供たちは覚える。平均寿命は約53歳。すごく若い。35歳で帰国する彼は後18年で死？ そんなはずはない。お産の時と乳幼児の死亡率が高くて平均寿命が低くなっているそうだ。

教育についての質問。1年生は何才から？という質問に彼ははっきり答えなかった。彼は1年遅れで小学校に入学したそうだ。体が弱かったからでも何か重大な理由があったためでもない。1年遅れてもどうってことはない。誰も不思議には思わないそうだ。日本のように6才で小学校に入学 12才で中学校 15才で・・・という決まりがない。しかし落第がある。小学校でもテストで半分取れなかった場合進級はないそうだ。1年生でもそうなの？と聞くとそうだという。信じられないと言うと 彼は彼のお兄さんと高校生のとときに一緒にの学年になったことがある。同級生のお兄さんは案外平気そうに見えたけれど 弟のバムさんは精神的に辛かったらしい。お兄さんがテストで点数が取れなかったら彼の下学年になるかもしれないとも考えたそうだ。当時を思い出す彼の顔は辛そうだった。しかし 現在のお兄さんは無事に大学を卒業して 携帯電話の仕事をしている。結婚して子供にも恵まれている。現在の家族の心配はむしろバムさんのこと。35歳で結婚をしていないバムさんの結婚相手を見つけること。帰国したらお見合い相手が待っているんじゃないの？というバムさんは大笑い。彼には就職も大事だけれど結婚も。帰国してからも大変だ。

マダガスカルではテストで点数が取れなければ進級させないという考え方が普通のようなが 途中で学校をやめる子供がどのくらいいるのかと考えた。やめるのではなく

落第しても義務教育は受けたいと望めば通学できるなら 今の日本の義務教育の方法よりもいいのかもしれない。何才で入学?と聞いたことを反省した。日本は誰でも学校に行けるけれど その権利をうまく使えない子供たちも多くいる。今の親達は義務教育のより丁寧な指導を求めている。また教育を受ける権利をどうとらえるかを考えている。子供たちが健全に育つことがどの国にも大切なことだ。

生活について。

正確にはマダガスカル共和国。大統領がいる。議会は上院と下院で成り立っている。国民の言葉はマダガスカル語とフランス語。学校の中ではフランス語。バムさんは英語と日本語を話すから 計4ヶ国語が堪能です。

主食はお米。いろんな種類のお米がある。国民はたくさんのお米を食べるそうだ。見せてもらった画面は本当に広く水田が広がっていた。赤いお米は特に美味しいそうでお砂糖をかけるそうだ。デザート?かも。バニラの輸出は世界一。ココアも有名。

アフリカでも南アフリカやナミビアは発展しているが マダガスカルはGNP137位。日本の平均給料が30万だとしたらマダガスカルは3万円くらい。ガソリンは日本と同じ価格なので給料に対して高い。日本のガソリンは安い感覚だそうだ。アフリカ大陸の国だがヨーロッパ(フランス)や東南アジアの影響が強くある。食事も東南アジア系。バムさんは日本食のお刺身やお寿司が大好物になったけれど マダガスカルの方は生のお魚は口にしない。味付けは濃い。香辛料が色々たくさんある。日本のお野菜はほとんどあるけれど大根はない。市場の画面にも日本と同じ野菜がたくさんあった。帰国してバムさんが作る日本食は?と聞かれて・・・鍋かなと答えていた。

広い世界の中で偶然にも愛媛大学に留学したマダガスカルからの留学生のバムさん。私はあなたのことを忘れません。国は違っても肌の色は違っても年はちがっても 人間の思うことは一緒だと あなたと話してうれしくなりました。あなたの国のマダガスカルにも親しみを感じています。 お元気で。 (MT)

乳児院に行ってみた。気軽に受け入れてくださった。赤ちゃんから6歳までの子供たち。知らないおばちゃんには抵抗がないのか 子供たちの顔はやさしい。本読みをするとひざの上ですーっと座る。かわいい。自分の子育てのときは時間ばかりに追われてゆったりとした気持ちで生活ができなかった。取り戻したくてもどうしようもない。子供たちの笑顔に満たされた気持ちになった。 (MT)

### 3月例会

## 東温市の野鳥・動物のスライドを見る会

3月20日(火)夜7時から、奥川さんを講師に招いて、東温市の野鳥・動物のスライドを見る会を実施しました。北吉井小学校のPTA会長をなさっていてお忙しい年度末の奥川さんのスケジュールを割いていただいたのの実施となりました。林宅のいつものリビングは、白いシーツをスクリーンに、ホームシアターに変身しました。奥川さんは、単車にスライド映写機・数多くの素晴らしい写真、スライドを一杯積んで来てくださいました。夜ということで、参加者は5名と多くはなかったのですが、一番熱望していた会員が参加できてよかったと思います。東温市の私達のごく身近に、こんなに美しい野鳥が飛んできているということ、直ぐ近くの山には、狸も鹿も、サルも、狐も、イノシシも、ムササビもアライグマそしてフクロウも住んでいるということ、見るもの全てが、とてもその世界に興味があるとは言えない私でも、ワクワクしてしまうものばかりでした。奥川さんと私達とは、私達が出した蝶の絵葉書のパネルをご覧になった奥川さんが、連絡をくださったのがきっかけでお会いしたのが始まりです。その時お渡しした『蝶のくる庭』の本にいたく感心され、自分もこのような身近の場所に根付いた本を野鳥・動物で出してみたいと言っていらっしやいました。バードウォッチングとは、実際に見なくても、本や図鑑で見るのでもいいこと、標準鳥(大きさの指標となる鳥・雀ぐらいの大きさとか鳩ぐらいの大きさとかいう)の話、双眼鏡の選び方・・・写真や・スライドを見せながらそれを撮ったときの状況や苦労などの話をしてくださるのですが、それが本当に興味深く面白かったです。中でも、かわいい狸の親子6匹の写真の話は圧巻でした。先ず、自分の匂いに慣れさせてから少しずつ近づき写真を撮る・・・細心の注意と気の長い話に感心!奥川さんの野鳥・動物に対する少年のような無垢な気持ちと深い愛情を感じずにいられませんでした。7時から始まった会は10時過ぎまで続きました。この写真の数々を、他の住民にも是非見てもらいたいと思いました。今後パネル展などできないものかと思います。そして個人的には野鳥を呼ぶために、教えていただいた庭に蜜柑を輪切りにして1m20cm以上(猫にやられないため)の所に置いておくことから先ず始めてみようと思います。(T・H)

市立図書館開館  
時間と曜日拡大  
来月から  
6日定

東温市 例)会期を  
20日までの十五日間と  
決め、一般会計百十四億  
三千万円(前年度同期比  
2・5%増)など特別・

企業会計を合わせ総額二  
百五十三億九百三十四万  
円(2・1%増)の二〇  
〇七年度当初予算や、一  
億四千七百三十七万円減  
額の〇六年度一般会計補  
正予算(累計百二十八億  
八千四百七十三万円、9  
・5%増)など二十一議  
案、議員発議二件を一括  
上程した。

市の財政について高須  
賀功市長は所信表明で  
「地方交付税制度が根本  
的見直しの予定など厳入

見通しは極めて不透明。  
財源不足は調整基金や減  
債基金の取り崩しで策を  
講じる」と説明。四月か  
ら市立図書館の開館時間  
を一時半延長し、月曜  
と第三日曜、祝日も開館  
することを明らかにし  
た。

昨年策定した市総合計  
画を基に、南方西公園新  
設▽地域省エネルギービ  
ジョンや景観、食育など  
諸計画の策定▽六月完成  
の防災センターを拠点と  
した防災体制強化「など  
にも取り組むとした。

継続審査となっていた  
請願五件のうち、「最低  
保障年金制度の創設を求  
める請願」など四件を不  
採択、一件を継続審査と  
した。

自主財源確保へ  
企業誘致を推進  
市長  
東温市 例)一億四  
千七百三十七万円減額の  
二〇〇六年度一般会計補  
正予算(累計百二十八億  
八千四百七十三万円)な  
ど六議案を原案可決。市  
議会議場に国旗及び市旗  
の掲揚を求める請願「な  
ど請願四件、陳情一件を  
委員会付託した。

今後の財源確保につい  
て、高須賀功市長は「企  
業誘致などを進め、税収  
を増やし、本年度の自主  
財源率47・9%を五割ま  
で上げ、環境福祉などに  
充てる」と述べた。各種  
団体への補助金について

は、夏ごろに設置する補  
助金等審査委員会(五人  
で、より公平公正に配分  
できる)よう審査する考え  
を表明した。  
防災センターを含む新  
消防庁舎について理事者  
は、市民の避難場所とし  
ても活用する方針を明ら  
かにした。  
女性を「産む機械」と  
した発言などを受け、柳  
沢厚生労働大臣の辞任を  
求める意見書」が議員提  
案された。

市議会

駅のスロープ  
伊予鉄に要望  
東温市 例)山内孝  
二(無所属)伊藤隆志(同)  
大西佳子(同)佐伯強(共  
産)竹村俊一(無所属)  
白戸寧(同)佐藤寿兼(共  
産)近藤千枝美(公明)  
渡部伸二(無所属)の  
九氏が一般質問。

市教委は、学校給食費  
未納者が二〇〇五年度分  
は三人で計約八万円、〇  
六年度分は一月末までに  
二十四人で約三十七万円  
と説明。保護者のモラル  
低下によるケースが多く、  
理事者は「理解と認  
識を持ってもらい解消に  
努める」と述べた。  
昨年八月で閉園したレ  
ジャー施設「犬のテーマ  
パーク 愛媛わんわん  
村(旧足立の庄、下林)  
建設に伴う旧重信町負担  
額について、理事者は九  
百七十七万円と答弁。伊  
予鉄横河原、牛淵両駅の  
スロープ設置について高  
須賀功市長は「仮設工事  
も含め、伊予鉄に要望す  
る」とした。市ツインド  
ーム重信(西西)など三ス  
ポーツ施設で指定管理者  
制度の導入を目指し、運  
用方針策定などの準備を  
進めていると説明した。

じん肺根絶へ  
意見書を可決  
東温市 例)最終  
一般会計百十四億三千万円  
(前年度同期比2・5%  
増)など特別・企業会計  
を合わせ総額二百五十三  
億九百三十四万円(同2  
・1%増)の二〇〇七年  
度当初予算など十六議案  
を原案可決。請願四件は  
「市議会議場に国旗及び  
市旗の掲揚を求める請  
願」など二件を採択、二  
件を継続審査とした。議  
員提出の「柳沢厚生労働  
大臣の辞任を求める意見  
書」を否決、「トネル  
じん肺根絶の抜本的な対  
策を求める意見書」を原  
案可決した。

人権擁護委員の任期満  
了に伴い、菅野胤子氏  
(六三)再任、南方IIの推  
薦に同意した。

三月十三日、市議会一般質問を傍聴した。十分遅れて入室。傍聴席はほぼ一杯。後から、数人  
入ってくる。その度にざわめく。二列の席の間に余裕がないため、奥の空席になかなか行けない。  
傍聴に行くたびにこの狭さ、どうにかならないものかと思う。  
一月の学習会の話題に出た「愛媛病院西の道路拡張について」は二人の議員から質問があった。  
「平成十三年三月末で横河原十号線として東温市の管理になっている。見奈良交差点で車の通行  
台数も調べたが、新市建設計画に入っていないこともあり、国費が無ければ困難」との答弁であった。

## 困った道

明治 23 年、横河原地区 14 戸から始まった部落が、鉄道や道路の発展で昭和 16 年には 203 戸となり、それから発展し続けた横河原である。大正 11 年には森松から横河原まで道路が改修された。昭和 13 年に見奈良に傷病軍人療養所が設置され、官舎が建った事から商店街は活気にあふれたそうだ。

昭和 26 年には伊予銀行支店が出来、47 年には、第二養護学校を開校し、この年に松山刑務所が今の場所に移転したそうだ。

それから今迄、道路の拡張はなく、車社会となってから、東温市でも国道を除けば、一番の交通量ではないかと思う。病院へ来る人通う人、養護学校に通う子供達、刑務所の職員、面会に来る方と、凄い車と人である。私も毎日の様に病院通いをしているが、ひやひや物である。狭い歩道を歩く人マイピヤで通るお年寄り、バスにでも出合った時は小さくなって止まって待つようにしている。

刑務所も養護施設も、見奈良病院も敷地は広く、50 センチや 1 メートルは市へ出してもらっても何の不自由もないと思う。道路側の土手の部分には、花いっぱい運動で近所の方々が美しい花を咲かせお世話をしているがこれが、大変危ない。車の行き来する中で気を使いながら仕事ではあるが、車の方から見ると怪我をさせてはと心配しながら通っている。又病院に通う人が交通事故となると、泣き面にハチというものではすまないと思う。小学校の子供達が帰る時に出会うと、二列三列になり、友達と後向きで話しながら通っている。一番危ないのが、それぞれの施設から道路に出て来る車は、見透しが悪いので出合い頭に衝突しそうな事もある。

もう少し歩道が拡がれば、事故になる事もないと思う。

田や畑の中に、あまり利用しない道路が次々に出来ているが、道路は、利用者の多い所から作って欲しいものである。

見奈良から横河原迄、歩いてみて下さい。

(S・K)



久しぶりに夫婦旅行を計画したが、国内、国外旅行と意見が別れ、今回は自分流の一人旅を楽しむ事とし、行く前は不安であったが、無事帰国するとあの異国情緒が忘れられず、もう一度でも二度でも海外旅行を楽しみたい心境で今や旅行なんて特別の事ではない、ローカルがグローバルなのである。

関西空港を飛び立ち夜間飛行で8時間20分、8500km、ニュージーランドの空港に着陸した。今回の旅行は現地ガイドなしの一人旅、まず最初は言葉に苦慮しながら路線バスになんとか乗ることが出来、町の中を探索し、ここでは開発前からの原生林であろう木々が一杯である。

展望台より周囲を見渡せば、どこまでも林が広がるまさに樹海である、首都の町ウエリントンには高層ビル群が地表に飛び出していて、まさに高度成長している国、夜間飛行と言葉の壁でノックダウン、一日目の夜は早くよりベットにもぐる。

朝日を浴びながら散歩に出掛ける、素晴らしい砂足の海岸線を楽しむ、ウォキング中の老夫婦に話掛ける、言葉が通じたのか分からないが、オーNOと言って立ち去る。

天気もよくコンタクト{予約}なしの市内観光、団体さんの後に続きなんのチェックもなしで国会議事堂に入り、議会開催中で素晴らしい見聞が出来参考になった。

ぼかぼと暖かい日和で、青く手入れされた芝生に寝転ぶ、守衛さんが来て怒った顔で合図、この看板を読めと言っているようであり、イングニッシューNOと言うと、出口まで案内してくれた。

植物園で昼飯を食べていると綺麗な人なっこい鳥がよってくる、サンドイッチを分け与えると一二羽がたちまち集団で群がってくる昼食を逃す。

二日間の観光を終わり最大の都市オオ克兰ドに向かう、ここでは定期観光バスに乗り市内全景が見渡せる丘陵{250m}噴火口跡に立ち、どこまでも広がる高層ビル立ち並ぶビジネス街、ワイテマ湾のブリッジとヨットハーバーおびたしいヨットやクルーザーの眺めは絶景だ、素晴らしい眺めである。

夜の一人散歩に出掛ける、まさにショッピングとビジネスの中心地、オオ克兰ドの銀座通り、なだらかな町並みを散歩、カフェ、ブティック、レストラン、土産店。さすがに移民国家、色んな物や人に遭遇する。ネオンのまばゆい通りで理解困難な日本語を話す強引な客引きに合い早々にホテルに帰る。

早朝に目がさめたので湾岸ぞいの美しい海岸を散歩する、まさにそこに太陽がある、まるで手をつかめるようである、会う人が皆んなグッドモーニングと声を掛けてくれる、お早ようさんと答えると何故か振り向いて行く。

午後の飛行機でオーストラリアに向かう、3時間のフライトでブリスベーンにつく着く。あいにくの雨模様であったが、温暖な気候と赤、黄、白と色鮮やかな花を付けた樹花が落ち着いた雰囲気印象的な街で、コアラ、カンガルの保護区で代金を支払い記念写真を取るが未だに送ってこない。{マジックに合ったのかな}

定期バスで、知る人も知る最大のリゾート観光地、ゴールドコーストに向かう、魅力的な所、話の種にノンビリと、一日ビーチ散歩と日光欲、素敵な夜と銭儲けをし燃える夜を楽しくと期待して、カジノで金掛をして000,000円失う、ホテルに帰っても心残り忘れられず睡眠不足。

残り滞在日も時間を有効にとレンタルオートバイにまたがり、青い海と白い海岸線、区画整理された市街地をドライブ、日本では捨てられたゴミ、カンなどが目に付くがさすが世界に知れた観光地、住民のマナーの高さには深く敬意を称する。もう一度でも二度でも訪れたいと思っている。

最後の観光地シドニーに向かう、経費節減の為、民間の7人乗り双発機{プロペラ機}に乗る、上空に上がるまでは最高のフライトでなんのこともなかったが、雲の中の飛行となり、小さい機体がドスン、ドスンと上に下に左右に激しくバウンドし、我が人生も異国の地で終焉となるのか、手帳に家族宛て別れ手紙を書いた、空港に着いてからも震えが止まらなかった。

シドニーでは眩いばかりの美しいさわやかな感動を誘う夜景、オペラハウス、アーチを描くハーバーブリッジとディナー、ショータイムを味った。

昨夜の好感を思い出しながら市内観光、サーフィ海水浴でにぎわうボンダイビーチ、岩がそそり立つシドニー湾、澄み切った青く深い海、太平洋の荒波が砕けちる、ふと玄界灘を思い出す。

残り一日は博物館見学とし、この国の開拓と発展と日本の歴史など深く認識した。

全ての日程をクリアーし、ダイナミックな大自然と調和した雄大な国を後にした。

少々経費はオーバーしたが、我が限りある人生の貴重な経験であった。



## モコの生命力

我が家の飼い犬のモコは、17歳である。雑種犬である。

高齢のため、二年前から三回『もうダメかもね』という数日間があった。しかし、その度に元気を取り戻している。

その三回目は今年の一月末のこと、恒例のモコとの朝散歩から帰った夫が心配そうな顔をしている。モコの歩きぶりが変だという。いつもの散歩コースなのに、ゆっくりと歩かし立ち止まったりもする、おかしいな、というのだ。次の日は、後ろ足がふらつくようになった。そして犬小屋から外に出なくなった。

去年から耳が遠くなっている様子だったが、私たちが小屋に近づくと決まって小屋から出てきて、私たちの足にすり寄って来てたのに……。私たちが犬小屋をのぞき込んで声をかけても顔を向けるだけになった。そのうち餌を食べなくなった。

水分は摂らせないといけないと思うのだが、飲んでいる様子がないので、一日四～五回、スポイドで私が水をモコの口に流し込んだ。犬小屋ではモコの様子がわかりにくいので、家の玄関にモコの居場所をつくった。餌は食べそうな物を色々与えてみたが、何も食べない。

食べなくなって一週間経った頃、モコは立てなくなった。立とうとしても、後ろ足に力が入らないようだ。暖かい日はモコを私が抱きかかえて、庭で日光浴と排泄をさせた。

十日間、モコは水だけで生きていた。鳴き声も出ない。子供達に“モコが衰弱してしまったよ。高齢だから、病院へは連れて行かないけど、私たちが出来る世話をしているよ。”とメールをうった。子供達からモコへの励ましのメールが届き、お互いにモコの死を覚悟し始めた。

そんなメールのやりとりをした数日後、庭に出したモコが草を食べようとしている。口に力がないので、草をくわえることが出来ない。何度も同じ行為をくり返しているモコを見て、モコの好物だったパンを少し与えてみた。すると飲み込んだ。バンザイ！

それからは、少しずつ量を増やして魚や肉も混ぜてみた。毎日、食べるようになると後ろ足が立つようにもなった。ふらつきながら、少しずつ歩けるようになった。

モコが衰弱したと感じて……。水しか飲まなくなって……。ゆっくりと快復し出して五週間が過ぎた今、モコと夫はゆっくりと朝散歩を楽しんでいる。

モコがいつまで私たちのそばにいてくれるかは分からないけれど、大切な家族として世話を続けていきたいと思っている。私たちはモコから生命力のすごさを、もう三回も教えて貰っている。

(R・D)

## 同級生

「3月11日退院します」西東京市の病院に入院しているMさんの様子を知らせるメールが千葉市在住の友から入ってきた。「ヤッター！！」同級生のメール仲間の誰もがそう思ったに違いない。

昨年の11月、同級会の案内を出したところ、Mさんからメールが入ってきた。

「11月30日に世界一と評判高いドクターにより両足同時の手術を受けます。一年後にはまともに歩けるようになりますから、少しでも人の役に立てればと願っています。次のクラス会にはまともに歩いて行けるとの思いでワクワクです。手術が成功するよう祈っててくださいね」

そして予定どおりの手術。手術成功。が、その日の夜中に脱臼、7時間の再手術。術後の強烈な痛み……。

10日程過ぎた頃、当の本人から「先程、素的な花かごが病室に届けられました。とってもいい香り！！ ありがとう！！ リハビリがんばれそう。リハビリより夜眠れずに苦しい姿勢が続くのが辛い日々。2度続けて長時間にわたる麻酔の後のなんともいえない感覚の中で、今もまだとんでもない字を書き、的確な文章になりません。でも日々進歩していて完成の日が楽しみです。辛かった記憶は静かに心の底に沈めていこうと思います。いつも励まして下さって本当にありがとう！！ とっても良いバラの香りの中で遠い故郷の友の思いやり・優しさを噛みしめています。今夜は眠れそう！」とお礼状が届く。

頃合を見て、病院の近くに住んでいる者はお見舞いに行き様子を知らせてくれる。遠くの者は励ましのメールを送る。

彼女は、小さい時から足が不自由だった。勉強もよく出来たし、頑張りやでよく笑い何事も皆と同じようにこなしていた。小柄で色白美人の彼女は東京の大学を卒業後、結婚し2人の息子さんにも恵まれた。息子さんと一緒に車の運転免許もとった。「東京駅まで赤いスポーツカーで迎えにきてくれた」とそのスピード狂ぶりを聞いたこともある。辛かった子どもの頃を思い出し同級会には参加する勇気がなくて、私の所に何度も長距離電話がかかった。やっと決心して出席した同級会は杞憂だった。それ以来彼女は「多賀の里われらが村……」と多賀小学校の校歌を歌い自分を励ましたという。でもいつも体の不安を抱えていたのだと思う。動けなくなった時のためにと早くからパソコンもはじめていた。

病床から折々にメールが届く。

「手術の一週間後には車椅子に座らせてもらう。杖系をし、松葉杖でのリハビリ

りが始まる。今日 20 メートル松葉杖で歩いたよ。ロボットの足のような感覚しかないけれど、本格的なリハビリの始まり、自分との闘いです」

「日々進歩、松葉杖で歩く距離も 50 メートルにのびたよー。もともとあるべき位置（股関節）に戻したのが 5センチメートルなので、左足の太腿からお尻にかけて物凄いつっぱり感がありロボットみたい、自分の物になるまでには時間、体力、忍耐が必要」

「そろそろ入院して 2 カ月、みなさんの声援に支えられて強烈なリハビリ頑張っています。ウエスト以下筋力ゼロからの出発で、ただいま 1 になったところ。優秀な理学療法士を専属に付けて頂き、毎日不可能を可能にして下さるから、きつけれど楽しく充実した日々です。退院はまだまだのようです。毎朝のようにベッドに居ながらにして“何とも言い表しがたい綺麗な日の出”を見えています。病院の生活もなかなか良いものよー」

「S.H さん、M.H さん、K.Y さんが遠いところ訪ねてくださって大感激。先週より右手松葉杖、左手T杖になりかなり歩いていますが、筋力トレーニングが主体で歩行訓練はもう少し後にするそうです。旧友の声援が大きな力になっています。感謝でいっぱい。まっすぐ歩けるよう頑張るね。ありがとう」

また、彼女に会ってきた人たちからもメールで様子を知らせてくれる。

「思っていたよりずっと良くなっていました。松葉杖も 1 本になり 2 月にはいったら階段の上がり下りのリハビリがはじまる。奇跡が起きたと喜んでいました。希望で嬉しそうでした。足にも力が入ってきたようです。先に手術した同室の方が『モデル』のように歩いて見せてくれて皆で感激し盛り上がったようでした。彼女もあと一息ですね！」 「2 月中には退院できるかも？と書いていました。笑顔で話してくれる彼女を見ていると、今まで痛くて辛かった分まで楽しくて幸せがいっぱい訪れますように祈らずにはられませんでした。同級会にはすらっとした彼女が見られると思います。友達が元気になるのは本当に嬉しいものですね」

そして 3 月 6 日、彼女からメールが入った。

「皆さん、素的な日々を満喫していらっしゃるご様子、何より…と、メールを楽しく読ませて頂きました。今回はセブ島へのツアーの企画、いよいよ実現！か、とワクワク。私も長い病院生活にこの土曜日、終止符をうつことになりました。先日 4 回目の外泊許可を貰い、自信をつける為、松葉杖をつけてではあるけれど 40 分かけて、自宅まで歩いて帰り、みんなを驚かせました。大地を一步一步踏みしめ、景

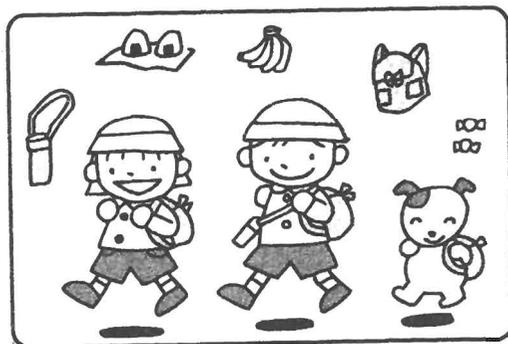
色を楽しみながら、家族全員で感動の散歩でした！長い年月の間に失われた筋力を取り戻すのは、容易なことではありませんが、順調に良い方向に向かっています。皆さんからの心暖かい声援にどれだけ支えられましたことか…感謝でいっぱいです。セブ島への訪問迄に杖がとれるよう、リハビリに励みたいと思います。どうぞ皆さま、神様から与えられた健康を大切になさって、何気ない日常を楽しくお過ごし下さいませ。お会い出来る日を楽しみにしております」

彼女とは「元気になって絶対一緒にセブ島へ行こうね」と約束していた。Yさんがフィリピンのセブ島で社長をしている。彼がいる間に、彼女のお祝いを兼ね同級会特別編をと計画が進み出した。「11月出発なら残り半年小遣いためます。おかしなもので、もう電池と現地の電圧心配しています」と同級会の度にビデオを作って楽しませてくれるAさんから早くもメールが入る。フィリピンの青い海をバックに私たちとは逆に5cm背の高くなった彼女を囲み、はしゃいでいる65歳になった幼馴染の姿が思い浮かぶ。三脚を立て「もう少しくっついて！僕の場所も空けといて！」と大声を張り上げながら走ってくるAさんの姿もダブる。ビデオも8本目となる。

金沢在住で山登りが趣味のIさんからは、海・山・花だよりも度々届く。外国航路の船員だったHさんは「気力と、ダイブへの興味が有る間に、この2~3年は太平洋をあちこちと廻ってみるつもりです」と沈没船の中まで撮影したDVDが届く。彫刻家のTさんからも、「また靖国神社から彫刻の依頼があった」との朗報。昨日、Aさんからも「9人もの方の作品をDVDに収録しましたので、楽しみにして下さい。経費は1本送料込み500円を予定しています。」とメールが入った。そして今日3月15日は新聞記者だったKさんの本が一般発売される日。

まさに同級生の気力・体力・知力にバンザイである。

(S・K)



## 雑感

三月になって、ようやく冬がやってきました。記録的な暖冬での雪不足は、雪解け水を利用する農家にとって深刻な問題です。雲にドライアイスの粒を撒いて雪を降らせようとする実験も進められているようです。でもこれ以上自然を操作しようとしなくて欲しいと思います。

パリで開かれた IPCC(地球温暖化の防止策を協議する為の政府間会議)でも温暖化は専ら人間の営みによるものとされ、今後このまま温暖化が進めば、自然災害は益々大きくなると警告しています。1994年に発効した地球温暖化防止条約は課題を残しつつも1997年、京都会議が開催され、温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、代替フロン2種)の排出量を2008~2012年までに1990年レベル比5.2%削減することを採択しました(京都議定書)。EUの目標8%減は既に達成され次の目標に向かっていますが、6%削減する筈だった日本は8%増という悲しい状態です。京都議定書に賛同しないアメリカのことが何かと俎上に上りますが、カリフォルニア州では発泡スチロール容器の禁止など身近なところから努力を始めています。リサイクルも大事なことです。処分しにくいものを作らない、使わないことをもっと真剣に考えなくてはと思います。当然のことですが、総ての物はいつかは必ずゴミになるのです。

高知県のある町は、高レベル放射性廃棄物の受け入れをめぐって町を二分する騒ぎになっています。国や核燃料開発事業団は確実に安全は担保すると説明しています。しかし、処理する時のことを決めないまま国内で55もの原発が稼働していることに恐ろしさを感じます。折も折、石川県の志賀原発が8年前におきた臨界事故を隠し続けていたことが発覚しました。すぐに報告していれば、3ヶ月後の東海村臨界事故は防げたかもしれません。

最近は様々な分野で、あまりにも隠蔽、捏造、虚偽、粉飾が多すぎます。子供たちはこんな大人達を見てどう思いながら育つのでしょうか。

かつて時代の寵児としてマスコミ、政界、財界からも持ち上げられていた起業家の若者が粉飾決算の罪に問われ、実刑判決が出ました。当時、群がっていた大人達はこの判決をどう受け止めたのでしょうか。

昨年末、サンテグジュペリと妻コンスエロの足跡を辿る番組を観ました。彼

は“費やした時間の長さで絆が生まれ、かけがえのないものになる。”と語っています。先日も著名な芸能人が 芸能活動を始めてからも続けていた銀行勤務を辞したとき息子から、いままで我が家には父親は居なかったと言われたと述懐していました。スープ作りで有名な料理家も身近な食材で心を込め、手間を惜しまず時間をかけて、季節ごとの味を創り続けています。梅の時期の”梅仕事”は圧巻です。イギリスの絵本作家であり園芸家でもあるターシャ・チューダーの庭も手間と時間抜きには生まれません。

忙しい親たちは限られた時間を中身の濃いものにする為に夫々に腐心しています。それでも時間の長さには変えがたい重みがある様です。

育児も介護も施設を充実させることに重きがおかれている昨今ですが、行政は、家族で“育てることができる” “介護できる”ための支援こそを考えて欲しいと思います。

人間誰しも、病気もしますし、怪我もします。そして、当然、必ず、老いていきます。誰しも健康を願い、いつまでも若々しくありたいとは思いますが。しかし最近の加熱する健康や抗加齢に対する執着には、病気になったり老いると、取り残されたり、弾き飛ばされてしまうことへの恐怖感があるように感じます。病気や老化を起り得ることとして受け止める個人、その個人を当たり前を受け入れる社会へと成熟していききたいものです。

県外に住む娘から、映画“不都合な真実”を薦められました。本とは違う、映像からの衝撃があったと言います。3/24から松山でも上映されると教えてくれました。20余年振りに映画館に足を運んでみようと思っています。

”日本の青空”も観たい映画です。GHQ が容認した日本国憲法の草案要綱を作った鈴木安蔵を描いています。

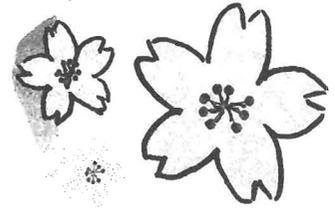
南側に隣接する畑を借りました。耕しているとモズの夫婦が虫をねだってやってきます。どうやらお隣の樹で子育て中のようです。

品川区で“蝶の舞う空を”という運動が始まり、ジャコウアゲハを繁殖させるためウマノズクサの植え付けを始めているそうです。東温市と品川区の姉妹都市縁組如何？

寒い三月、今まで床で寝ていた大五郎(犬)がいつの間にか掛け布団の上にあ

がってくるようになりました。何しろ 37Kg です。重いし、布団がずれて寒いし、少々寝不足です。リリ(猫)が逝って 3 ヶ月。大五郎も私たちも少しずつ彼女の居ない日々に慣れてきました。

桜の開花予想も気象庁の入力ミスで修正されました。桜の開花には正しい時期の冬が不可欠とされています。本来の冬の時期の異常な暖かさに開花を危ぶむ専門家もいます。無事 咲いてくれますように!! (K・O)



## お知らせ

- ・ 4 月例会は、まだ内容・日時共に未定です。決まり次第ご連絡します。遅めのお花見でもできればいいのですが.....
- ・ **読者の声・投稿などお待ちしております。**

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号 (郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956 (林)

E-mail: [kt-hayashi@nifty.com](mailto:kt-hayashi@nifty.com)

## 編集後記

私事ですが、昨年 9 月以降、夫の母が何度も危篤になり、その都度名古屋に帰っていました。その母が、2 月 26 日未明みんなに見守られて、遂に帰らぬ人となってしまいました。86 歳でした。亡くなられてみて母が太陽のような大きな存在だったことを今更ながら感じています。寂しくなりました。

(T・H)